
とまどい

みほ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とまどい

【Nコード】

N0572B

【作者名】

みほ

【あらすじ】

夏も間近に迫ったある日の午後。ミホは2年前の懐かしい夏を思い出す。

夏の始まり（前書き）

こんにちは。みほです。私が書いた作品、『とまどい』という物語を楽しんでもらえたらなあと思います。

夏の始まり

彼はいつからここにいて
彼女はいつまで待つのでしょうか
これは悲しくも美しい…

——恋の唄——

拝啓 志摩先生様。

もうすぐあの季節がやってきますね。

私は今でもあの年の夏が心に残って消えません。

7月13日午後12時23分。

「にゃあ」

と小さく鳴いて猫のランが、ミホの膝の上に小さくなって座った。

「どしたのラン？お腹すいちゃったかな？」

ミホはそう言ってランの首を撫でた。

ランは気持ち良さそうに目を細めてのどをゴロゴロと鳴らした。

その姿が何とも可愛くてミホは知らない間に微笑んでいた。

「…ねえランちゃん…。」

静かにミホが言った。

「少し話聞いてよ…。」

するとミホが言った言葉がわかったのか、ランはもう一度

「にゃあ」

と鳴いた。ミホは目を丸くしてランを見たが、すぐにニコツツと笑った。

部屋の窓からは昼の日差しが入ってくる。

その日差しを見ていると、あの頃の懐かしい思い出が鮮明に瞳に

映し出されるような気がした。

「あれは…私達がまだ恋なんて文字を知らなかった頃…」

目の前にある新しい感情に戸惑ってばかりいたあの頃。

これは悲しくも美しい恋の唄。

ゼーフォールアウト(前書き)

やっと2話目ですa(*、*)b

セーフォーアウト

暑い夏の午後2時。

2人の少女は太陽の真下を歩いていた。

カキンッ！

「一塁走れー！！」

スカッとする音がすると、野球ボールは青空高く飛んでいった。

「あつー…。」

7月12日。

夏休みまであと8日。

莉歩は手をうちわがわりにして、自分の顔に風を送った。

「こんな炎天下の中でよく野球なんてできるわねえ。あたしなんて補習でこんなバテてんのに。ありえないわ…。」

「まあまあ。」

ミホはハンカチで額の汗を拭って言った。

「補習も…先生のおかげで今日できるんだからさ。」

だが莉歩は

「だからって平日の放課後を…それに今日短縮で午前授業だったのにさ…。」
と嫌そうな顔をした。

莉歩達の学校は今日、学校説明会があるのでいつもより10分短い授業を4回受けるだけで終わるのだ。

「夏休みを満喫したかったから」とかいう理由でわざわざ無理して放課後に変更してもらったんだから…文句言わないの!」

「まあ…そうだけどさ…。」

これは——ある年の…夏の日の物語——

「ぐだぐだ言っでないで早く帰っちゃおう。さすがに。暑いわ…。」
ミホは優しく莉歩に微笑みかけた。

莉歩は一回軽くため息をついて
「はいはい。」

とめんどくさそうに言っでまた炎天下の下をのろのろと歩き出した。

— 中学最後の最後の夏の小さな… 小さなとまどい —

「 墨アウトー！！ バッター交代！！ 」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0572b/>

とまどい

2010年12月13日20時57分発行